

道徳の授業を参観される皆様へ（2年生）

資料名「ネパールのビール」

～人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める。～

資料の内容は

ネパールの小さな村に滞在した筆者が、ビールを買ってくると志願する少年に大金を渡してしまいます。大金をもった少年は一向に戻ってこず、筆者は事故ではないかと心配する半面、「逃げたにちがいない」という村人の言葉に心が揺れてしまいます。

「逃げた」という周囲の言葉に惑わされ、少年を信じきれない筆者の弱さと、約束を果たそうと命がけで戻ってくる少年の二人を対比的に捉えながら、人間がもつ弱さ醜さと強さ気高さについて話し合い、それを自分とのかかわりでとらえさせて、自己の将来の生き方や課題について考えを深めていきます。

授業の内容は

ネパールについて写真などを見せながら、日本との環境の違いや生活水準の違いを把握させます。筆者の心情を中心に資料について考え、少年を最後まで信じきれなかった筆者の心の弱さと、少年の約束を守ろうとする誇りある生き方について考えを深めていきます。授業の終わりでは、文部科学省教材「私たちの道徳」の「人間の強さや気高さを信じ生きる」を読んで、自分の将来のために人間として生きる喜びはどんなことを考えます。



協議会では

授業の後、視聴覚室で協議会を行います。

協議会のテーマは、「生徒の思考を深める発問の工夫について」と生徒の「人間のすばらしさ」です。ぜひご参加ください。